

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ー)

事業所番号	0690800347		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホームサン・シティ		
所在地	山形県酒田市曙町2丁目28-5		
自己評価作成日	平成 28年 11月 15日	開設年月日	平成 27年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるように支援しています。利用者も職員も互いに相手を尊重する気持ちを持ち、笑顔の多い施設でありたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 12月 8日	評価結果決定日	平成 29年 1月 10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な鳥海山を眺め、法人の各種福祉施設に囲まれた「おら家(い)」で、利用者は炬燵でまどろんだりソファで寛ぎ、自分のペースでゆったりと暮らしています。また仲良く作った季節毎の作品をコミュニティーセンターに展示してもらい見学に出かけたり、近くのスーパーやコンビニにも出かけて買い物などを楽しんでいます。利用者との距離を縮めようと新たに個別の外出支援に力を入れて取り組んでおり、水族館や美術館・足湯などで絆を深め、職員も笑顔で傍に寄り添い、家庭的な環境の中でいつまでも自分らしさを続けられるよう支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者一人一人のペースで生活ができ、笑顔が見られる環境を作っている。 家族が気軽に訪問できる環境を作っている。	理念の「ゆっくり・ゆったり」の思いが利用者にも伝わり、穏やかな生活を送っている。職員は利用者の距離を縮めようと寄り添い一人ひとりのできることを見出し、生活の中に役割を持ってもらい、それぞれの目標に掲げて実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に買い物に行ったり、地域の夏祭り等にも参加している。又、ボランティアの受け入れも行い交流が図れている。	運営推進会議の出席者からさまざまな意見や情報を得て、地域とのつながりが深まり双方向的関係を築いている。コミュニティセンターのギャラリーには利用者の作った作品を展示し、地域に暮らす一員として共に活動や役割を担っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を受けたり、グループホームの見学を随時受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意見から、地域の夏祭りやコミュニティセンターとの繋がりができている。	隣接する地域密着型特別養護老人ホームやデイサービスと合同で運営推進会議を開き、活発な意見交換が行われている。それぞれの施設の特徴や対応のあり方についても意見が交わされ、気づきをもらってサービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き、会議の持ち方や運営等にアドバイスを頂いている。	インフルエンザや食中毒などの情報をもらったり、事業所からは利用者の生活の様子やサービスの取り組みを伝え、互いに協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関は朝7:00～夜8:00まで自由に出入りが出来ようになっており、家族の面会にも早朝や夜でも受け入れている。	研修を通して言葉づかいや拘束についても理解し、全員で拘束しない自由な生活を提供できるよう統一して関わっている。ナースコールやセンサー付きのベッドを使用し安全を最優先に支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	7月下旬に虐待防止の自己学習を行い、虐待防止の徹底に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は今年度のケアマネ研修の際に学んでいるので、今後職員の学ぶ機会も作っていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に来所して頂き、十分な説明をし、納得した上でサインを頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際や家族懇親会の時に意見を頂いている。	面会時や家族懇親会などに利用者の生活を見てもらいながら、丁寧に「私達の気付かないことを教えてください」と頼み、話しやすい雰囲気を作って意見や要望を伺い、サービスに反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が気づいた時に管理者や上司に気軽に言える雰囲気を作っており、職員会議や年2回の個人面談の際にも意見を聞く機会を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員個々の努力や実績等を評価・報告し、目標を持って働けるようにしている。又、随時職員と話をする機会を作り、意欲を持った仕事ができるようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加については、施設内外共に積極的に参加している。又、資格の取得については補助金制度があり、研修や資格取得のための欠勤には有給休暇を取れるよう配慮している。	外部講師を招いたり、実務研修を通して知識を深め、研修結果を共有して日々のケアに活かしている。資格取得助成制度を設けて、職員の意欲と向上につながり励みとなっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	酒田市介護サービスに事業者連絡協議会に加入している。	市介護サービス事業者連絡協議会やさまざまな研修会に管理者や職員が参加し、交流を通じて情報交換を行っている。また他事業所に出向いて取り組みを学び業務につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の様子や表情は常に観察しており、利用者との会話の機会を作るように努めている。体操・歩行訓練・レクリエーションを午前・午後に行い、個別対応時に会話に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話での相談を受けた時点で、十分に話を聞き、希望の聞き取りを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が納得できるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者からも、積極的に手伝ってくださるようになり、役割が出来ている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助は、可能な家族にはお願いしており、共に本人を支えている。また、気兼ねなく来て頂くように声を掛けており、毎日来て下さる家族もいる。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親せきの訪問も受け入れており、定期的に来て下さる方もいる。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時折、入所者同士の喧嘩があるが、職員が間に入り良い関係が築けるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所で退所された方や入所待ちの為ショートステイを利用されている方がおり、必要時に相談を受けることができる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を汲み取る努力をしており、できる事は実践している。	歩行訓練や外出の時などのふれあいを通して、利用者の心の思いを汲み取り、それらの思いがかなえられるように目標を掲げて支援し、利用者・家族の信頼が得られるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネジャーより情報を提供してもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化について記録し、申し送り、職員一人一人が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、担当職員より話を聞き、現状に即した介護計画を作るように努めている。	モニタリングで本人家族の思いや意向を確認し、かかりつけ医とも連携を図りながら、現状の暮らしを少しでも長く継続できるよう健康維持を目標に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に残す様に努めており、実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りへの参加や買い物外出、家族と一緒に懇親会の計画などの機会を作っている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は継続しており、家族が通院介助を行っているが、体調などの情報提供を毎回行っている。	家族側によって受診介助を行い、遠方の場合や車イス使用の人には職員で対応しながら、希望する医療を受けられるように支援している。かかりつけ医と情報のやり取りを通して関係を築き、家族等と互いに情報を共有している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることがあった場合は、随時看護師に相談し支持を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通してスムーズに入院できるように支援している。入院時には情報提供に努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に施設の方針や看取り介護について説明し、必要に応じて家族と話し合う機会を設けている。	終末期ケアについてマニュアルを作成して家族側に説明し、医療行為が必要になった場合には隣接する特別養護老人ホームに転移するなど、医療機関と連携して利用者・家族の希望に沿えるように取り組んでいる。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で定期的に急変時の対応について研修を実施しており、全職員が1回以上参加している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上避難訓練を実施しており、災害時に備えている。	隣接する法人の施設と合同で訓練を行い、利用者の安全確保に努めている。定期的に防災委員会を開催し、夜間の災害対応や備蓄品の確保、川の氾濫に伴う避難方法についても検討し、近くのコミュニティーセンターも参加して協力体制について話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム会議において、随時職員の言動について注意を促し、適切な対応ができるようにしている。	誇りやプライバシーについて、全職員が研修を通じて認識し、利用者を尊重して、ゆっくりゆったりと自分のペースで生活ができるように支援している。言葉の語調や内容が馴れ合いにならないように注意して関わっている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に耳を傾けるように努めており、わかり易い言葉で質問するなど、自己決定ができるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大切にし、起床や就寝、食事の時間等を調整している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意思を尊重し洋服を選んだり、外出時にはおしゃれしたりできるように支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、準備や後片付けを行っている。また、肉や魚については好き嫌いを考慮して、代替えを準備している。	肉や魚などの嗜好調査を行い、母体からの配食で提供している。できることを手伝ってもらうことで自信につながり、得意げな表情から利用者の生活歴を窺い知ることができ、食事をしながら利用者との会話を通して一人ひとりの関心を引き出している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し、職員や看護師が把握できるようにしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自主的にできない方については声掛けし、うがいや歯磨きを促している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の状態に合わせて、トイレで排泄できるように支援している。	自力で排泄のできる人が多く、見守りながら支援している。粗相した時には失敗を指摘しないでできたことを褒め、さりげない言葉でそっと後始末してその人のプライドを守っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寝起きに水を飲んでもらったり、食物繊維の多い食事の提供をしている。体操や歩行の機会を設けるとともに、下剤を使用している方については、服用時の支援を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上入浴ができるようにしており、本人の希望があれば入浴日時の変更にも対応している。午前・午後・寝る前の3回入浴時間を設けている。	家庭的なユニットバスを設置し、今までの生活習慣や希望に合わせて夜間の入浴なども取り入れている。一人ひとりの意向を大切に、無理強いすることなく入浴して寛いでもらえるように、言葉がけを工夫しながら介助している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が好む室温や明るさに調節し、安心して休んでいただけるようにしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・職員が共に個々の薬の処方状態を把握しており、変化については看護師と情報を共有し、適切な支援が来ている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動や共同制作で作ったものを展示し、見て楽しんだり家族も見られるようにしている。おやつ作り等では役割を持って参加してもらっている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って行っている。通院時に自宅や喫茶店に寄ったりできるように家族と連携を取っている。	年間を通して多彩な行事を計画し、デイサービスの送迎車を使って水族館や花見・紅葉狩りなどに出かけている。家族と個別に出かけることも多く、外出支援に力を入れ利用者の活力になるように積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理能力のある方については、所持する事を許可している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があった場合には、電話をしたり手紙やはがきを出せるように支援している。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースには、季節の花を飾ったり装飾を施し、季節感を感じられるようにしている。明るさや室温・湿度についても心地よく過ごせるように調整している。</p>	<p>広く長い廊下を使って歩行訓練やボーリングなどのレクリエーションを行い、機能回復を図っている。壁には花紙で作った四季折々の作品を飾り、利用者は作ることの楽しみと出来上がった時の達成感を味わい、それらを眺めながらソファやコタツでくつろいでいる。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブル席や和室があり、好きな場所で過ごせるようにしている。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者や家族には自由に持ち込んでも良いことを伝えており、実際に持ち込んで生活されている方もいる。</p>	<p>全てのベッドにナースコールとセンサーがつき、物の配置なども利用者の動きに配慮して事故防止に努めている。机やイス・テレビなど馴染みのものを傍に置いて、その人らしい自由な設えで暮らしの場を整えている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレは居室や共有スペースの近くにあり、廊下にも手すりを付け安全に移動できるようにしている。</p>			